

## 第8回 CIEC サタデーカフェ

### 開催概要

開催日:2021年12月18日(土)20:00~21:00

会場:Zoomによるオンライン開催

### プログラム

20:00 - 20:15 【 話題提供 】

スピーカー:若林靖永氏 (CIEC 会長・京都大学経営管理大学院経営研究センター長)

テーマ: 学校教育でのクリティカルシンキング 教科教育、生活指導、プロジェクト(総合)

20:15 - 21:00 【 フロアとのフリーディスカッション 】

第8回 CIEC サタデーカフェは「クリティカルシンキング」をテーマに CIEC 会長である若林靖永氏による話題提供でした。クリティカルシンキングについて、世間ではすでに様々なところで実践されており、例えば、情報収集や情報評価もクリティカルシンキングなら、しっかりと構成されたアウトプットや相手に対して思っていることが伝わっているか、また、その相手の言っていることが理解できるかなどもクリティカルシンキングであると考えられる。しかし、クリティカルシンキングの能力を高めるためにどのようなことがなされているか、たとえば、日本はまだ海外には及ばないし、バカロレア教育が行われているフランスではより厚みのある教育が行われている。そこで、若林氏は、「教育のための TOC」というツールを用いてクリティカルシンキング能力を高める実践をされており、発表や実践を中心とした初年度ゼミの学生にも取り入れておられる。若林氏が見学された小学校でも、SDG's を考える取り組みの中でこれらのツールが応用されている小学4年生での様子も報告された。子どもたちが、友達のことやと未来について考え、相手を思いやり、SDG's について自分の言葉で発表するツールとして TOC を用い、クリティカルシンキングを実践されているという話題提供でした。

その後、フロアとのフリーディスカッションとなり、クリティカルシンキングに関するいろいろな話題が出されました。紹介のあった小学校の先生も参加いただいております、「ロイノート」の思考ツールを使用しているが、それを使うことが目的になってしまっている事があり、それではダメということで、付箋と模造紙でクリティカルシンキングに取り組んだ。小4でも十分に対応でき、なぜならばという考え方を身につけることが大切だと考えている。」と述べられた。子どもたちが他人の意見に対して批判的思考をもとに発言することは難しいのではないかとという質問には、「批判的と捉えると言いにくくなるので、ツッコミを入れるよう促している。関西の学校でもあり、ツッコミというと発言しやすくなる傾向があるようだ。実際は小6の生徒から小4の子たちにツッコミを入れてもらったりすると、抵抗感も少ないようだ。間違いの指摘ではなくツッコミという感覚を大事にしている。」というお話だった。また、この取り組みをされる前後での比較においては、「子どもたちの会話に、なぜならばという言葉がよく現れるようになった。この状況は、結構早い段階で現れている。」と述べられ、自分が話していることに、「なぜならば」ときちんと言えることが大事であり、その効果が現れているようだ。さらに、TOC は大学院生でも小学生でも使えるツールであり、年齢に応じて自分たちができることについて、しっかりと考えさせることの大切さや、対面での豊かなコミュニケーションを意図的に創出することの大切さ等も語られた。最後に、「まともに考えることを教える教育こそ、クリティカルシンキングである。」という話も出され、クリティカルシンキングは、これまで行われてこなかったわけではないが、今までやってきていることを自覚して組み込んでいけば評価できるものであり、より自覚的に実践し、より自覚的に教育していくことが大切である、とまとめられた。

年度末ということもあり15名の参加でしたが、毎日カリキュラムに追われ、やらないといけないとわかりながらなかなか実践にまで達していなかった我々にとっては、改めて考えさせられる非常に有意義な1時間となりました。年内はこれで最後になりますが、4月から始めたサタデーカフェも第8回を数えるまでに成長し、毎回ご参加いただける先生もおられ、大変嬉しく思います。今後も、さまざまな分野でご活躍の方に話題提供をいただけるよう検討を進めたいと思います。今回の話題提供者である CIEC 会長の若林氏を始め、枚方市立東香里小学校の磯西先生、森先生、その他ご参加頂いた方々にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。(文責:平田義隆)